

2008年度 ミクロ経済学初級I 第1回演習(自宅学習用)

グレーヴァ香子担当クラス

提出しなくていいです。

次回の講義で解答解説をしますので、それまでにやっておきましょう。

- 2つしか財がなく、名前は第1財、第2財とする。以下のそれぞれのケースについて、予算制約式を書き、予算集合を図示しなさい。(横軸を第1財の数量 x_1 、縦軸を第2財の数量 x_2 としなさい。各軸の切片を明記すること。)
 - 所得 1000 円、 $p_1 = 10$ 円、 $p_2 = 5$ 円
 - 所得 2000 円、 $p_1 = 10$ 円、 $p_2 = 5$ 円
 - 所得 1000 円、 $p_1 = 20$ 円、 $p_2 = 5$ 円
 - 所得 1000 円、 $p_1 = 10$ 円、 $p_2 = 15$ 円
- 1の分析から、所得や価格の変化が予算制約線と予算集合にどのように影響するかを言葉で説明しなさい。
- 2つしか財がなく、名前は第1財、第2財とする。 $x = (x_1, x_2)$ を通る無差別曲線が

$$ID(x) = \{y = (y_1, y_2) \mid y_1 \times y_2 = x_1 \times x_2\}$$

という数式で表される消費者がいるとする。つまり、2つの財の量のかげ算が等しいと、無差別である。この消費者が所得 1000 円、 $p_1 = 10$ 円、 $p_2 = 5$ 円という状況において需要する(予算制約の下でもっとも選好する)消費ベクトルを求めなさい。